

東区 地域の茶の間「うちの実家」

開設10年 節目で幕



来年 “先導役”惜しむ声

高齢者らが気軽に集まる地域の茶の間の“先導役”として運営されてきた「うちの実家」(新潟市東区粟山4)が、来年3月末で終了することになった。地域の茶の間を提唱した第一人者の河田珪子代表(68)は、同市中央区では、市内各地に集まる場が開設されるようになった上、うちの実家が開設10年の節目を迎えることから終了を決めた。

うちの実家は、2003年に河田さんが空き家を借りてスタート。お年寄りや子ども、障害者らがお茶飲みをしたり、話をしたりして時々、県の推計では、地域の茶の間のような交流の場

間を共有。県内外からの視察や研修も含め、年間超えるという。

河田さんは「うちの実家を開設後、「気軽に集まる場を歩いて行ける範囲にたくさんつくりたい」との思いで活動してきた。各地に茶の間が広がり、うちの実家を訪れる人の受け皿が整ってきた。開設から来年3月で

は県内に1500カ所を超えるという。

河田さんは「ここに来る所があればいいけれど、落着く。ほかにいい場所がない所はほかにならない」と残念がった。

河田さんは「どこかでけじめを付けないといけない。人とのつながりをつくるきっかけになるのが地域の茶の間で、世間に認められたことが成果だ」と語る。終了後に新たな茶の間を開く考えはないという。

うちの実家に8年通っている東区の阿部美根子さん(88)は「ここに来るときを使わずに済むので落ち着く。ほかにいい場所がない所はほかにならない」と残念がった。